

第10回体の動きを高める運動領域部会記録

参加者 河野 古川 岡田 畠中 関川 山本 藤原 小木曾 土屋 藤井 鈴木 坪根 横山 大川
常任理事 黒澤校長 高草木校長
指導主事 美越指導主事 森田指導主事

I 特設の今後の見通し&アプリ運動例リストの確認

特設チーム計画

日程	運動開発	運動アプリ	学習カード・ロードマップ
8月第4週	運動決定		
8月第5週 (9月第1週)	実技研修	実技研修	学習カード(個のロードマップ)形の大枠決定
9月第2週	動画撮影	動画撮影	カード訂正(チーム内)部内での情報共有
9月第3週	動画撮影予備日	動画撮影予備日 ※撮影が済んでいれば、アプリ作成に入る。	修正・改善 授業者確認
9月第4週		アプリ作成	修正後、決定
9月第5週		アプリ完成①検討	
10月第1・2週		アプリ完成② 畠中先生へ	
10月第3?4?週	畠中学級授業開始		

体の動きを高める運動一覧

要素	運動	工夫の視点	素材 あり・なし	今年度アプリに 入れるもの
柔	① ペアストレッチ	姿勢		
	② ゴムひも	姿勢・人数・用具・方向	○	○
	③ 輪	姿勢・人数・用具・方向		
	④ ボール転がし	姿勢・人数・用具	○	
	⑤ ウォーキングストレッチ	姿勢		
巧	① 馬跳び	リズム・姿勢・人数・方向		
	② みんなでジャンプ	リズム・姿勢・人数・方向	△	
	③ ケンステップ走路	リズム・姿勢・人数・用具	○	
	④ 短なわ	リズム・姿勢・人数・方向	○	
	⑤ 長なわ	リズム・姿勢・人数・用具・方向		
	⑥ コース走(仮)			○
	⑦ バンブーステップ	リズム・姿勢・人数・方向		○
力	① プッシュアップ	リズム・姿勢・用具	○	
	② 人運び	リズム・姿勢・人数	○	
	③ ロールマットずもう	姿勢・人数・用具		
	④ 登り棒	姿勢・方向		
持	① エアロビクス	リズム・姿勢・用具	○	○
	② ベース走	リズム	○	

2 夏季合同研修プレゼン&原稿の確認

(1) 体の動きを高める部会の「問い」の捉え方について

本部会では、問いを「自らの問い」「子供の問い」と捉える

(2) プレゼン確認 加除訂正

- ・ 本日の流れは、最初の画面に映す。
- ・ 成果と課題のキーワード化。
- ・ 「工夫の善し悪しが分かりやすい運動例とは」に対する部会の考えを明確にする。
- ・ 第5学年（学習課題を見いだす力を見いだす）
- ・ 第6学年（一人一人が自分の高めたい運動を選ぶ）

3 ロードマップ&学習カードの提案

(1) ワークシート

- ・ 現段階の考えを伝えていく

体の動きを高める運動ワークシート（全体）

【单元を通して取り組んだ運動に○をつけよう】

(2) 問いマップ

- ・ 中央に「体の動きを高める」と置きたい
- ・ 問いと学習課題とのつながりをもたせたい
- ・ ウェビングマップも時系列で分かるようにする
とよいのではないかな
- ・ 学習課題につながる問い

(3) 学習カード

- ・ 第1時は、学びのロードマップを作成
- ・ 第1時は問いのみを振り返りとして書く → 全体のワークシートに記入（現状の欄に記入）
- ・ 「今日の学習で大切だと考えたこと」と「体の動きを高めるために大切なことは？」の設問の検討

体の動きを高める運動

6年 組 名前

体の動きを高める運動

6年 組 名前

4 全面オンライン実施に伴う変更点&役割分担の確認

(1) 協議の仕方の検討

- ・30分間
- ・ブレイクアウトのグルーピング
- ・各グループの部員は質問に答えていくが、全体で共有すべきことは共有していく
- ・チャットの扱い
→発表中にチャットを入れてもらい双方向のやり取りを行っていく
- ・ブレイクアウト後は、各グループの報告はなく、全体協議を行っていく

5 先生方より

(1) 森田先生

自らの問いから始まり、自ら学びのロードマップを作成する学習の流れは、子供のよい学びになる。自分に合った学びを行うことがこれから求められる。

(2) 横山先生

よい発表になることを願っています。

(3) 美越先生

- ①岡田実践の授業検証から研究の視点を示したい。
- ②特性は、何を根拠にしていますか？
- ③研究の一般化に向けて「問いをもつ」「学びのロードマップ」は、詳しく教えてほしい。
- ④新たな運動例の紹介をすることで、「知識及び技能」が重点になるおそれがあるので留意したい。
- ⑤多様な動きをつくる運動との違いを取り上げることは必要なのか？
- ⑥単元計画10時間で考えた根拠があるといい。

(4) 高草木校長

研究全大会がなくなったことは残念ではあるが、社会の状況を考えると仕方ないことである。
児童がタブレットを活用する際には、何のために撮るのかを明確にして、使用する必要がある。

(5) 黒澤校長

学びのロードマップは、「いつ」「何のために作成するのか」学級全体のロードマップ
問いマップの活用の仕方をどのように図っていくか
協議会は短い時間をどのように充実させていくかつめていかなくてはいけないと感じた。
夏季合同研修会では、これまでの研究の取組を参観者にどれだけ理解してもらうことができたかを把握する場でもある。

(6) 河野先生

実証授業に向けた途中報告を夏季合同研修で報告できるとよいと考えている。